

重点配分、金沢大学は85大学中、2番目に低い評価

重点支援③で削減された分の 80%しか取り戻せず!

金沢大学、運営費交付金が来年度は3000万円削減!

学長と理事の責任は重大! どう責任をとるのか!

YAMAZAKI プランは抜本的な見直しを!

**補助金削減を口実にした、研究費・教育費の削減、職員
の雇い止め、首切りに絶対反対!**

**このままで大学はどうなる? 組合は、大学の危機的状況に
対し全力で奮闘します!**

*裏面に3/10付けの北陸中日新聞の記事を掲載
しましたのでご覧ください。

名大など42大 交付額が増額

重点配分の結果公表

文部科学省は九日、国立大の改革推進策として二〇一六年度から始まる運営費交付金の重点配分の結果を公表した。名古屋大など四十二大学で所定の削減分に対する再配分額の割合が100%を超え交付額が増加、岡山大など四十三大学では減少する。〓**関連の面**

「世界で卓越した教育研究」
「世界で卓越した教育研究」の三分野から目指す方向を一つ選び、改革案を文科省に提出していた。

京都教育大(75・5%)
など三十三大学は再配分率が100%に満たなかった。

「世界で卓越した教育研究」では九州大など十大学で再配分率が100%を超え、金沢大など六大学で下回った。

交付金削減の金大 「戦略伝わらず残念」

再配分80%

文部科学省が九日公表した国立大の運営費交付金の重点配分結果で、北陸の四大学は削減分に対する再配分額の割合が100%を割り込み、減った。各大学が

類型別にまとめた戦略に対する文科省の評価が、全国の他大学に比べて低かったことになる。〓**6面参照**

金沢大は80・2%と全国八十五大学で二番目に低く、北陸先端科学技術大学院大が92・6%、富山大と福井大が97%。金沢大の有松正洋理事(総務担当)は「われわれの戦略の方向性が伝わらなかったのは残念」と肩を落とした。金大は再配分による減少額が三千万円ほどになるといふ。

有松理事によると、金大は学部の共通教育の改革に力を入れて戦略をまとめたが、文科省の評価が低かった。有松理事は「金大の類型化からすると、文科省は

大学院の高度化を重視し、ミスマッチがあったと考えている」と説明している。

実際は、金大は先端大と二〇一八年度に共同大学院を構想するなど大学院の高度化を進めており、文科省から五億円近い別の補助金を得られている。「共通教育の改革を途中でやめることはできない」。今回の減額はある程度想定していたと明かし、「再来年度に向けては国の意向を見ながら申請したい」と話した。

(日下部弘太)